

考古学教材「須恵器に見る古代の国づくり」指導案

※対象 中学生から高校生(小学生はちょっと難しいかな)

教材	実物の須恵器破片20点、実物の土師器破片20点 須恵器集合写真パネル、土師器集合写真パネル
----	--

ねらい	朝鮮半島からの渡来人によって、現代に繋がる技術がもたらされた意義を学ぶ。 Key words: 朝鮮半島交流、須恵器、土師器、渡来人、最新技術、最新文化
-----	---

	指導・主眼	教材
渡来人	古墳時代に多くの人々が朝鮮半島から集団でやってきた。 ⇒「渡来人」 朝鮮半島は、当時の日本よりも先進地 ●渡来人たちがもってきた新しい技術や文化はなんだろう ・農具、土器、鍛冶、絹織物、武器 文字、仏教、冶金術、須恵器、瓦 指導のポイント ・班別で意見を出し合う	
須恵器とは	写真パネルを見ながら、須恵器の特徴を土師器と比較して確認 ・色は？ ・煮炊きに使う土器は？ ・食器は？ 指導のポイント ・高温焼成で焼き締まっているので、土師器に比べて保水機能が高い。硬く、壊れにくい。 ・熱を伝えにくく、煮炊きの土器には不適。水を通しにくく、土師器にはない機能が生まれる。	須恵器写真パネル 土師器写真パネル
須恵器・土師器に触れる	実際に出土した須恵器片と土師器片を ・触ってみる 班別で考えて意見を出し合おう 指導のポイント ・須恵器と土師器の違いを探す ・観察する 内側と外側についている模様(製作した痕跡)が違う ⇒土師器は手で粘土を密着、須恵器は板で叩いて粘土を密着・・より粘土の目が埋まる 須恵器は土師器よりも砂が少ない、土器の色も違う ⇒土器を焼く窯構造が異なり、須恵器が高温で焼くために、粘土や配合する砂が違う 指導のポイント ・在来の土器に比べて全く違う焼き物、その利点は何か？	須恵器片 土師器片
須恵器生産とヤマト政権	・須恵器は、ヤマト政権主導で生産が開始された。 土師器は地方色豊かだが、須恵器は画一的な形 = 須恵器は、専門工人が生産に従事、 ⇒他の渡来系の技術はどうか。 ・文字は？・・・稲荷山古墳銘文鉄剣、倭王武上表文 ・農具や鉄・・・新技術の農具や武器が古墳から多く出土 ・仏教寺院・・・まずヤマト政権の渡来人に近い豪族などに採用 ★生産のみならず社会を変革する影響を与えた＝古代の産業革命 指導のポイント ・須恵器は在来の土器に比べて全く違う焼き物で、「倭国」政権主導で生産された ・新しい渡来系の文化は、まずヤマト政権で集約。その後地方に拡散。 ⇒古代国家成立のための重要な要素 ・須恵器は、珠洲焼の祖先＝土器技術のベースとなる・・・ ・仏教は現代まで日本の中に大きな位置を占める ●5世紀から7世紀は、国家形成のために渡来人が大きな役割を果たした。－ 彼らの技術力	
